

I 平成17年度小学校・中学校学力調査概要

1 結果分析の趣旨

小学校・中学校における全国的にみた学力の実態を把握・分析するとともに、学習指導上の課題を明らかにし、今後の教育課程の編成・実施及び指導方法の工夫・改善を図るため、本報告書を作成した。

2 実施概要

- (1) 実施日時 平成17年5月10日（火）、11日（水）
- (2) 調査対象校 市町村立小学校265校、中学校138校
（小学校10校、中学校2校は対象児童生徒なし）
五ヶ瀬中等教育学校（前期課程）
宮崎大学教育文化学部附属小・中学校
- (3) 調査学年・教科 小学校第5学年 国語，社会，算数，理科，意識調査
中学校第2学年 国語，社会，数学，理科，英語，意識調査

3 各教科平均点

(1) 小学校第5学年

各教科		全 国	宮 崎 県	差
平均 点	国語	72.1	75.0	2.9
	社会	70.4	72.6	2.2
	算数	74.0	75.7	1.7
	理科	65.5	65.3	-0.2

(2) 中学校第2学年

各教科		全 国	宮 崎 県	差
平均 点	国語	77.8	80.6	2.8
	社会	59.9	60.6	0.7
	数学	63.0	67.8	4.8
	理科	65.0	66.5	1.5
	英語	73.5	75.7	2.2

(3) 教育事務所別

① 小学校第5学年

教科	教育事務所	平均点
国語	宮 崎	76.5
	南那珂	74.9
	北諸県	73.8
	西諸県	72.8
	児 湯	76.7
	東臼杵	72.5
	西臼杵	78.3
	県	75.0
社会	宮 崎	74.5
	南那珂	71.1
	北諸県	71.6
	西諸県	70.2
	児 湯	71.8
	東臼杵	70.8
	西臼杵	73.2
	県	72.6
算数	宮 崎	77.0
	南那珂	74.8
	北諸県	75.4
	西諸県	73.8
	児 湯	75.3
	東臼杵	74.0
	西臼杵	76.1
	県	75.7
理科	宮 崎	66.3
	南那珂	65.9
	北諸県	65.0
	西諸県	64.7
	児 湯	64.4
	東臼杵	63.4
	西臼杵	67.3
	県	65.3
計	宮 崎	73.6
	南那珂	71.7
	北諸県	71.5
	西諸県	70.4
	児 湯	72.1
	東臼杵	70.2
	西臼杵	73.7
	県	72.2

② 中学校第2学年

教科	教育事務所	平均点
国語	宮 崎	82.8
	南那珂	78.3
	北諸県	80.4
	西諸県	79.1
	児 湯	81.0
	東臼杵	77.4
	西臼杵	79.7
	県	80.6
社会	宮 崎	64.4
	南那珂	56.8
	北諸県	59.6
	西諸県	57.2
	児 湯	58.6
	東臼杵	57.2
	西臼杵	62.5
	県	60.6
数学	宮 崎	71.7
	南那珂	63.6
	北諸県	66.9
	西諸県	66.7
	児 湯	66.2
	東臼杵	63.4
	西臼杵	66.2
	県	67.8
理科	宮 崎	69.2
	南那珂	62.6
	北諸県	65.9
	西諸県	64.6
	児 湯	66.3
	東臼杵	63.2
	西臼杵	65.0
	県	66.5
英語	宮 崎	79.7
	南那珂	72.4
	北諸県	74.6
	西諸県	70.5
	児 湯	75.0
	東臼杵	72.2
	西臼杵	76.5
	県	75.7
計	宮 崎	73.6
	南那珂	66.7
	北諸県	69.5
	西諸県	67.6
	児 湯	69.4
	東臼杵	66.7
	西臼杵	70.0
	県	70.2

4 全体概要

(1) 学力調査

- 宮崎県と全国の平均点を比較すると、小学校理科の平均が全国よりわずかに低かったものの、小学校の他の3教科、中学校のすべての教科は全国平均を上回った。特に、中学校数学では全国平均を4.8ポイント上回っている。
- 設問別(全国の*共通問題)でみると、小学校では88問中55問(62.5%)、中学校では134問中119問(88.8%)が全国平均より高かった。しかし、それぞれの教科において正答率が全国平均より低い設問もあり、今後、指導の工夫・改善を図っていく必要がある。
- 関心・意欲・態度に関する設問については、肯定的に回答した児童生徒の割合が全教科とも全国平均の割合より高かった。
※小学校社会科は宮崎県独自の問題があるため

(2) 意識調査

小学校115項目、中学校119項目で調査を行った。調査内容としては、学習する上での基盤となる項目と生きる力の項目で構成されている。結果は、小学校では73.0%、中学校では86.6%の項目で、全国平均の割合より高い結果が出た。以下は全国との比較、学力との相関関係から特徴的なことをあげたものである。

〔全国との比較〕

- 新しく習ったことを何度も練習したり、復習したりする等の「自ら学ぶ力」のほとんどの項目については、小・中学校ともに全国平均の割合より高い。
- 目標に向けてコツコツ学習することや、分かるまで努力すること等の「学ぶ姿勢」のほとんどの項目については、小・中学校ともに全国平均の割合より高い。
- 調べたことをまとめたり、筋道を立てて考えたりする等の「生きる力」については、すべての項目で全国平均の割合より高い。
- 家族と話したり、手伝いをしたり等の「家庭での指導や活動」に関しては、小学校段階ではほとんどの項目が全国平均の割合より低い。中学校段階ではほとんどの項目が全国平均の割合より高い。
- 小・中学校ともほとんどの教科で好きと回答した児童生徒の割合が全国平均の割合より高い。理解度も同様である。

〔学力との相関関係〕

- 朝食を食べることや起床、就寝時間等の規則正しい生活習慣と学力との間には相関が認められる。
- 本や新聞を読んだりすることと学力との間には相関が認められる。
- 自分を理解してくれる友だちや気にかけてくれる家族、認めてくれる教師の存在と学力との間には相関が認められる。
- まちがえたところをやり直したり、単に学習内容を暗記するのではなく理由や考え方も含めて理解したりしていくことと学力との間には相関が認められる。特に、中学校段階では強い。
- 「生きる力」と学力には強い相関が認められる。
- 責任感をもつことや他の意見を尊重することと学力との間には相関が認められる。
- 他の教科と比べると、小学校の算数、中学校の数学と英語において、好き嫌いの情意面と学力との間には強い相関が認められる。
- 学習塾と学力の関係については、中学校段階では相関が強くなってきている。